



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 41 No. 6
December 2016**

毒理学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

第44回日本毒性学会学術年会のご案内（第3報）	103
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第1報）	107
第18回日本毒性学会生涯教育講習会案内	108
第19回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験合格者	109
2017年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領	110
2017年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	111
2017年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	111
第43回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	112

日本毒性学会編集委員会からのお知らせ

International Advisory Board の紹介	113
----------------------------------	-----

毒性学ニュース索引（41巻）

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

入会案内・変更手続き

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

第44回日本毒性学会学術年会のご案内 (第3報)

(年会ホームページ: <http://jsot2017.jp/>)

1. 会期

平成29年(2017年)7月10日(月)～12日(水)

2. 会場

パシフィコ横浜 会議センター
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL: 045-221-2155 (総合案内)
URL: <http://www.pacifico.co.jp/>

3. テーマ

トランスボーダー: 学問領域の枠を超えた毒性学

4. 年会長

熊谷 嘉人 (筑波大学医学医療系 環境生物学分野)

5. 企画委員 (敬称略・五十音順)

青木 豊彦 (㈱サンプラネット)
青木 康展 (国立環境研究所)
赤池 孝章 (東北大学)
荒牧 弘範 (第一薬科大学)
石塚真由美 (北海道大学)
小椋 康光 (千葉大学)
鍛冶 利幸 (東京理科大学)
菅野 純 (日本バイオアッセイ研究センター,
国立医薬品食品衛生研究所)
北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)
小池 英子 (国立環境研究所)
古武弥一郎 (広島大学)
小柳 悟 (九州大学)
佐藤 雅彦 (愛知学院大学)
鳥羽 陽 (金沢大学)
中村 和市 (北里大学)
西田 基宏 (生理学研究所)
野原 恵子 (国立環境研究所)
野村 護 (㈱イナリサーチ)
姫野誠一郎 (徳島文理大学)
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
黄 基旭 (東北大学)
堀井 郁夫 (ファイザー, 昭和大学)
松沢 厚 (東北大学)
三浦 伸彦 (労働安全衛生総合研究所)
宮内 慎 (持田製薬㈱)
務台 衛 (田辺三菱製薬㈱)
山田 久陽 (大正製薬㈱)
横井 毅 (名古屋大学)
吉成 浩一 (静岡県立大学)

6. 特別企画 (予定, 敬称略)

- 1) 第15回市民公開セミナー
テーマ: 食と健康: その功罪と次世代に向けた
新たな取り組み (仮)
日時: 2017年7月9日(日)
午前10:30～12:30
場所: パシフィコ横浜 会議センター
- 2) 年会長招待講演
Dysfunction of vascular smooth muscle and
vascular remodeling by nanoparticles
Jin-Ho Chung
(Seoul National University, Korea)
- 3) 特別講演
 - (1) 野村 大成
(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)
 - (2) Jon C. Cook
(Pfizer, USA)
 - (3) Songsak Srianujat
(Mahidol University, Thailand)
 - (4) Bruce Blumberg
(University of California, Irvine, USA)
 - (5) Jingbo Pi
(China Medical University, China)
- 4) 教育講演
 - (1) 姫野 誠一郎
(徳島文理大学薬学部)
 - (2) 黒田 悦史
(大阪大学免疫学フロンティア研究センター)
- 5) シンポジウム (仮題・順不同 28セッション)
 - ・毒性解明に向けた薬物代謝・動態研究の融合
 - ・環境汚染物質と免疫・アレルギー
～基礎免疫学, 疫学, 毒性学の視点から～
 - ・毒作用発現におけるエピジェネティック毒性と
その臨床展開
 - ・「時間毒性学」～古くて新しい毒性学～
 - ・細胞内小器官シグナルネットワークを介する臓
器毒性制御 (日本薬理学会合同シンポジウム)
 - ・抗酸化レドックスと活性イオウによる解毒代謝
機構の新展開
 - ・重金属の細胞毒性に対する新しい毒性防御分子
と防御系
 - ・オートファジーによる細胞死の制御

- ・ケミカルエコロジーと毒性学
- ・医薬品開発における探索安全性評価の戦略について
- ・非臨床安全性評価から臨床へのトランスレーショナル臨床化学
 - －副作用を回避する従来型検査法に加わる新規バイオマーカーの有用性－
- ・メタルトキシコロジーを牽引する最先端分析法の現状と展望
- ・応用トキシコロジー：トキシコロジストに求められる新たなチャレンジ
- ・臨床フェーズ 1 試験の安全性を考える－BIA 10-2474 事件から何を学ぶか－
- ・エビジュネティクス機構を考慮したトキシコゲノミクスの展開
- ・継世代影響広域企画
- ・食品汚染と毒性影響：恒常性機能の攪乱による毒性発現メカニズム
- ・遺伝毒性発がん物質の「閾値」とリスク評価
- ・ストレスバイオロジーから分子毒性学への展開
- ・カーボンナノチューブの「剛性」と発がん性：分類・評価に必要な知識の不足を、青・茶・白アスベストの比較知識から補う
- ・子どもへの低容量化学物質曝露が誘発する情動認知行動影響の定量的解析法の開発状況と評価法確立への未来
- ・インビトロ・インシリコ全身毒性予測評価手法開発の現状と課題
- ・大気汚染物質に関する毒性評価の最新動向：越境大気汚染から国内起源まで
- ・A new era : Exposome and toxicology
- ・米国毒性学会合同シンポジウム
- ・日本毒性病理学会合同シンポジウム
- ・日本中毒学会合同シンポジウム
- ・次世代研究セミナー Big Data や人工知能で広がるトキシコロジー

6) 就職活動支援プログラム キャリアアップ支援

7. 一般講演

- 1) 一般演題（口演およびポスター）を募集します。主発表者（プレゼンター）は本学会会員に限ります。現在非会員の方で発表を希望される方は、学会ホームページ掲載の入会申込書にて、日本毒性学会事務局へ入会の手続きを行って下さい。日本毒性学会ホームページ：<http://www.jsot.jp/>
- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記8に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会ホームページから登録

して下さい。

演題申込開始日：

2017年1月11日（水）（予定）

演題申込締切日：

2017年3月3日（金）（予定）

- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて10～15分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上できるだけ早い時期にお知らせいたしますので、ホームページなどで随時ご確認ください。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えてポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。

4) 優秀研究発表賞

2017年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集いたします。

応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を行っていただきます。受賞者の発表は、2017年7月11日（火）に行い、授賞式は、2017年7月12日（水）に学会会場で行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

8. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバー処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要項と年会ホームページを熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・訂正◆

年会ホームページにアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのように登録を進めて下さい。なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。発表者個人情報登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。登録には会員番号（5桁）が必要です。パスワード（半角英数）は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。4文字以上10文字以内で入力して下さい。なお、パスワードは「登録内容の変更」により変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

2) 共著者・演題情報登録

2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。
共著者数は最大 20 名、所属機関名は最大 15 施設まで登録可能です。

2-2) 演題カテゴリ登録

次の中から発表内容に適したものを選択して下さい。

演題カテゴリ：() 内はカテゴリ選択のための参考キーワード

- 101. アグリカルチャルトキシコロジー
(農薬, 農作物, 生態毒性)
- 102. アナリティカルトキシコロジー
(分析法, 代替法, 手法)
- 103. イムノトキシコロジー
(免疫毒性, 炎症, アレルギー)
- 104. エンバイロメンタルトキシコロジー
(環境汚染物質, 内分泌攪乱物質, 金属, 工業用化学物質)
- 105. オーガントキシコロジー
(肝臓, 腎臓, 皮膚, 感覚器, 消化器, 呼吸器, 循環器, 生殖器, 胎児, 内分泌系, その他の組織・系)
- 106. オミクストキシコロジー
(オミクス)
- 107. オルガネラトキシコロジー
(オルガネラ, 細胞毒性, オートファジー, 生体(細胞)応答)
- 108. クリニカルトキシコロジー
(医薬品開発, バイオマーカー, 疫学・臨床毒性学, リスクコミュニケーション, 高感受性集団)
- 109. クロノトキシコロジー
(時間毒性学, 生体リズム)
- 110. ジェネティクトキシコロジー
(発がん性物質, 生殖毒性, 遺伝毒性, 発がん, エピジェネティクス, 遺伝子多型)
- 111. デイベロップメンタルトキシコロジー
(発生毒性, 発達毒性)
- 112. ドラッグトキシコロジー
(薬毒物中毒, 薬物依存性, 薬物代謝, キネティクス, 蓄積・排泄)
- 113. ナノトキシコロジー
(ナノマテリアル)
- 114. ニューロトキシコロジー
(脳神経系, 行動毒性)
- 115. パソロジカルトキシコロジー
(毒性病理学)
- 116. ヒューマントキシコロジー
(疫学, 越境大気汚染)

- 117. ファーマコトキシコロジー
(医薬品, ワクチン, 安全性評価, 毒性試験法, 統計解析法)
- 118. フードトキシコロジー
(食品汚染物質, 食品・食品添加物, トキシン)
- 119. モレキュラートキシコロジー
(分子毒性学, 毒性関連遺伝子, 毒性発現機構)
- 120. レドックストキシコロジー
(レドックス, 酸化ストレス, 活性酸素種, 活性イオウ分子)
- 199. その他*
(一般毒性, 放射線, その他の物質, 幹細胞, モデル動物, その他)

*適切なカテゴリがない場合は「199. その他」を選択して下さい。年会事務局で要旨内容に基づきカテゴリ分けを行います。

2-3) 発表形式

発表形式を「口演」, 「ポスター」, 「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。
優秀研究発表賞への応募の有無を選択して下さい。

2-4) 演題名

文字数について、登録ページの入力欄には、文字数制限がありません。下記を目処にお願いします。

日本語演題名 文字数：
最大全角 80 文字 (スペース含め)
英語演題名 文字数：
最大半角 200 文字 (スペース含め)

なお、演題名に特殊文字/上付き/下付き/ボールド/イタリックなどの文字を含む場合には、下記ページの HTML タグを使用し、入力をしてください。

ただし、この HTML タグは、上記文字数にはカウントしません。

<タグ一覧/特殊文字一覧/よく使用する特殊文字ページ>
http://www.senkyo.co.jp/tag/ja/tag_list.html

2-5) 要旨作成要領

文字数は全角で 800 文字以内 (半角英数字は 2 文字を 1 文字に換算) です。本文中に演題名・所属・氏名・図表等を入れなくて下さい。

3) 登録内容確認・訂正

登録の最後に登録情報の確認画面が表示されますので、内容を確認・訂正して下さい。後日改めて確認・訂正を行なう場合は、登録時に入力したパスワードを用いて確認・訂正画面を表示させることができます。

4) 登録完了

登録が完了すると受付番号が表示されます。登録したメールアドレス宛てに演題登録完了メールが送信されますので確認して下さい。翌日まで経過してもメールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

9. 参加登録および参加費

事前参加申込開始日：

2017年1月11日(水)(予定)

事前参加申込締切日：

2017年4月14日(金)(予定)

1) 参加費

※ 学会会員の参加費は「不課税」、関連学会会員、非会員の参加費と懇親会費は「課税(消費税込)」となります。

	事前登録	当日受付
会 員	12,000 円	14,000 円
学生会員	4,000 円	5,000 円
* 関連学会会員	13,000 円	15,000 円
非 会 員	15,000 円	17,000 円
懇親会(一般)	9,000 円	12,000 円
懇親会(学生)	4,000 円	5,000 円

* 関連学会については調整中です。

2) お振込(決済)等の詳細については年会ホームページにて追ってご案内いたします。

10. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時：2017年7月11日(火)午後6:30より(予定)

会場：横浜ロイヤルパークホテル

〒220-8173 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-3

TEL：045-221-1111(代表)

URL：<http://www.yrph.com/>

11. 展示・ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー、広告掲載、展示出展を募集します。詳細はホームページ(<http://jsot2017.jp/contents/company.html>)に掲載しておりますのでご覧下さい。

12. 年会事務局

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学健康医科学イノベーション棟307

筑波大学医学医療系 環境生物学分野

事務局長：新開 泰弘

事務局次長：広瀬 玲子

事務局参与：藤原 泰之

(東京薬科大学 薬学部 公衆衛生学教室)

TEL：029-853-3133 FAX：029-853-3259

E-mail：secretariat@jsot2017.jp

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第1報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第18回日本毒性学会生涯教育講習会」
108ページの記事を参照願います。

「第20回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。集中講義によってトキシコロジー全般にわたる理解を深めたいうえで、10月に開催されます第20回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。3日間の講義を予定しています。

1. 日 時
2017年8月7日（月）～9日（水）

2. 会 場
東京大学農学部

3. 参加費（予定）

一般会員	25,000円
学生会員	5,000円
非会員	30,000円
学生非会員	8,000円
認定トキシコロジスト	20,000円（2～3日受講） 10,000円（1日受講）

4. テキスト
「[新版] トキシコロジー」(朝倉書店, 2009年刊)の内容を中心に講義を行う予定です。正誤表は学会ホームページに掲載されています。

5. その他

受講修了者には受講証明書を発行します。また、学生受講者（大学院生を含む）は出欠を確認したうえで受講認定証を発行いたします。

「第20回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。

1. 日 時（予定）
2017年10月1日（日）
2. 会 場（予定）
昭和大学 旗の台キャンパス
3. 受験料（予定）
30,000円

「認定トキシコロジスト資格の更新」

2002年、2007年、2012年に認定トキシコロジストに認定された方（認定トキシコロジスト No.1～94, 211～233, 364～397, 507～529）は2017年が資格更新の時期となります。詳細は2017年1月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

第18回日本毒性学会生涯教育講習会案内

日本毒性学会

教育委員会委員長

広瀬 明彦

生涯教育小委員会委員長

鈴木 睦

本講習会では、昨年より学習フレームを、①トピックス (SOT 報告)、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。本年も同様のフレームで開催を予定しておりますので、是非、積極的なご参加をお待ちしております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応についてメカニズムから最新の話題を含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。

1. 日時

2017年7月9日(日)

2. 会場

パシフィコ横浜 第3会場 501

3. プログラム(仮)

1) SOT2017 報告: Continuing Education Course
の話題をもとに

1-1 演者1(選考中)

Technologies and Applications of Stem Cells
for Use in Toxicology

10:30 ~ 11:15

1-2 演者2(選考中)

Health-Based Limits for Toxicological Risk
Assessment: Setting ADE for Pharmaceutical
and Chemical Safety

11:15 ~ 12:00

(昼休憩 12:00 ~ 12:50)

2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー:
“消化管/消化器の毒性変化を考える”

2-1 串田 昌彦先生 (住友化学)

「非病理学者のための病理学講義 - 消化器
(あるいは消化管)の構造と毒性変化-」

12:50 ~ 13:50

2-2 福井 寿朗先生 (関西医科大学消化器内科)

「医薬品の消化器系への副作用(臨床での有害
事象)(仮)」

13:50 ~ 14:40

(休憩 14:40 ~ 14:50)

2-3 國澤 純先生 (医薬基盤・健康・栄養研究所)
「腸から考える健康増進と疾患」

14:50 ~ 15:40

2-4 薩 秀夫先生 (前橋工科大学)

「腸管に対する外来異物の *in vitro* 評価(仮)」

15:40 ~ 16:30

4. 参加費(1日フルコースとして設定)

事前申込

会員 5,000円(予定)

非会員 7,000円(予定)

認定トキシコロジスト 3,000円(予定)

当日申込

会員 7,000円(予定)

非会員 10,000円(予定)

認定トキシコロジスト 5,000円(予定)

第 19 回日本毒性学会認定トキシコロジスト 認定試験合格者

第 19 回認定トキシコロジスト認定試験を、2016 年 10 月 2 日に昭和大学 旗の台キャンパスで行いました。その結果、所定の書類審査に合格し、試験問題総数 200 問の試験において 140 点以上の得点を獲得し、新たに認定トキシコロジストと認められた受験者は次の 27 名でした。

おめでとうございます。

なお、受験者の総数は 76 名でした。

藍澤早希子	青木 聡子	安彦由喜恵	磯部 厚志
市村 亮平	宇部 雅進	大隅 友香	寒川 祐見
黒河佐知子	桑田 和倫	合田 圭佑	河内 綾香
小林 大起	小柳美穂子	小山 直美	高島 理恵
田中 英樹	坪井 優	豊田 武士	長井 寛明
平野 隆之	福井 規雄	福田 浩司	藤澤 希望
松尾沙織里	松山 恵吾	宮柱 澄香	

(五十音順 敬称略)

2016 年 10 月 31 日

一般社団法人日本毒性学会

理事長 永沼 章

教育委員会委員長 広瀬 明彦

認定試験小委員会委員長 古川 賢

2017 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格：日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格：日本毒性学会理事 1 名。

表彰：授賞者数は毎年, 最大 1 名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

1. 推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（1,000 字以内）
3. 特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2016 年 12 月 31 日（土）

2017 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満65歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は2017年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は2017年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去5年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2016年12月31日（土）

2017 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は2017年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は2017年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2016年12月31日（土）

第 43 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 43 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 43 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

International Advisory Board の紹介

The Journal of Toxicological Sciences 誌は国際学術誌として発展してきたが、このたび International Advisory Board を設置し、国際化をさらに進めることになった。幸いにも国際的にも著名な一流の研究者の参画を得ることができた。ここに International Advisory Board の1人である佐藤哲男先生に Board メンバーの紹介をお願いした。改めて素晴らしいメンバーに、編集委員長として感無量である。ご尽力いただいた佐藤哲男先生に心より感謝申し上げる。

鍛冶 利幸

(The Journal of Toxicological Sciences 誌 Editor-in-Chief)

The Journal of Toxicological Sciences は鍛冶利幸編集委員長ならびに関係各位のご尽力により国際的に高い評価を得られるまでに発展した。今後、さらに質的な向上を期して、この度国際的に著名なトキシコロジー研究者に International Advisory Board を依頼することとなった。これがひきがねとなって、本誌が一段と飛躍することを祈念したい。

佐藤 哲男

(The Journal of Toxicological Sciences 誌 International Advisory Board)

■ Dr. Herman Autrup, PhD, ATS

現職：デンマークの Aartus 大学公衆衛生学部名誉教授。

学歴、職歴：1971年にコペンハーゲン大学を卒業後、1975年に Kenya の Nairobi 大学で Ph.D. を取得。1975年から1983年まで米国 Bethesda にある国立がん研究所 NCI に勤務した。1983年にデンマークのがん研究所に勤務し、1990年に同研究所環境医学部門の教授に就任した。また、タイのバンコックにある Chulabhorn 研究所の環境毒性部門の招待教授に就任した。

学会活動：これまで EUROTOX, IUTOX の会長を始め多くのトキシコロジー、がん研究関係の国際学会、ILSI HESI などの役員を務めている。また、toxicology, molecular epidemiology and carcinogenesis 分野で200以上の原著や著書を出版している。

主な受賞：Autrup 教授は2005年に欧州環境変異学会の Frits Sobel 賞を受賞。2008年には開発途上国における研究推進に関する功績が評価されて Princess Chulabhorn Gold medal を受賞。2014年に米国 SOT 教育賞受賞。EUROTOX 名誉会員(2009)、デンマーク科学アカデミー会員(1997)に選出された。

編集：Associate Editor, Toxicological Sciences; Editorial board, Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology, Arch Environ Occup Health ほか

専門領域：ナノマテリアルス, ナノトキシコロジー

[さらに一言]

Autrup 教授2013年から3年間 IUTOX President を務めた。また、米国 NCI に勤務した関係で、米国 SOT にも友人が多く世界的に活躍している。

(注)

[さらに一言] は佐藤哲男の追記

毒性学ニュース索引 (41 卷)

毒性学ニュース索引 (41 巻)

日本毒性学会からのお知らせ

第 43 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 4 報)	No. 1	1
第 43 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報)	No. 2	16
第 43 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 6 報)	No. 3	36
第 44 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 1 報)	No. 4	49
第 44 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 2 報)	No. 5	89
第 44 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 3 報)	No. 6	103
第 43 回日本毒性学会学術年会報告	No. 5	88
第 42 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	No. 1	8 / No. 2 19
第 43 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	No. 4	52 / No. 5 95 / No. 6 112
第 18 回日本毒性学会生涯教育講習会案内	No. 5	94 / No. 6 108
第 19 回日本毒性学会基礎教育講習会日程	No. 2	15 / No. 3 35
第 19 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	No. 3	25 / No. 4 43
第 19 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験合格者	No. 6	109
第 55 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①	No. 4	53
第 55 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②	No. 4	54
2016 年度一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会報告	No. 5	63
2017 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領	No. 4	50 / No. 5 90 / No. 6 110
2017 年度日本毒性学会賞候補者推薦要領	No. 4	51 / No. 5 91 / No. 6 111
2017 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	No. 4	51 / No. 5 91 / No. 6 111
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 1 報)	No. 6	107
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 2 報)	No. 1	5
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 3 報)	No. 2	11
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 4 報)	No. 3	31
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	No. 3	27 / No. 4 45
認定試験受験資格のための評点表	No. 3	29 / No. 4 47
米国毒性学会 (SOT) 教育コースへの派遣者公募	No. 5	92
理事長就任の御挨拶	No. 5	61
日本毒性学会理事監事	No. 5	62
日本毒性学会各種委員会委員長	No. 5	62
社員総会開催のご案内と出欠票 (委任状) 提出のお願い	No. 1	9
社員総会開催のご案内と出欠票 (委任状) 提出のお願い (第 2 報)	No. 2	20
社員総会開催のご案内と電磁的総会出欠 (委任状) 回答システムへのご登録のお願い	No. 3	39
「特別賞を受賞して」山本 雅之	No. 5	79
「学会賞を受賞して」鍛冶 利幸	No. 5	80
「奨励賞を受賞して」佐能 正剛	No. 5	81
「奨励賞を受賞して」竹田 修三	No. 5	81
「技術賞を受賞して」跡部 朋美	No. 5	82
「技術賞を受賞して」関根 秀一	No. 5	82
「技術賞を受賞して」米澤 豊	No. 5	83
「田邊賞を受賞して」立花 研	No. 5	83
「田邊賞を受賞して」辻田 恭子	No. 5	84
「田邊賞を受賞して」渋谷 淳	No. 5	84
「田邊賞を受賞して」熊谷 嘉人	No. 5	85
「ファイザー賞を受賞して」日比 大介	No. 5	85
「ファイザー賞を受賞して」甲斐 清徳	No. 5	86
「ファイザー賞を受賞して」八木 孝司	No. 5	86
「ファイザー賞を受賞して」藤本 哲也	No. 5	87

日本毒性学会編集委員会からのお知らせ

International Advisory Board の紹介	No. 4	55 / No. 6 113
----------------------------------------	-------	----------------

総説

「韓国で発生した加湿器殺菌剤による健康被害」 黄 基旭, Ha-Ryong Kim, 永沼 章, Kyu-Hyuck Chung	No. 5	96
------------------------------------------------------------------------	-------	----

その他のお知らせ

CBI 学会 2016 年大会開催のご案内	No. 3	40
Molecular Chirality Asia 2016	No. 1	10 / No. 2 21
フォーラム 2016: 衛生薬学・環境トキシコロジー	No. 4	59
第 23 回 HAB 研究機構学術年会	No. 2	22
第 23 回日本免疫毒性学会学術年会	No. 3	40 / No. 4 59
第 33 回日本 TDM 学会・学術大会	No. 1	10 / No. 2 21
日本薬物動態学会 第 31 回年会	No. 4	59
日本薬物動態学会第 30 回 WS/ 第 10 回 SC	No. 2	22

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和51年 4月 1日制定
平成17年 8月 1日改定
平成24年10月 1日改定
平成26年 7月 1日改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を一般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (4) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4ファイルに上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。
- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Resultsなどのサブタイトルは付けない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 μm , mm, cm, m, μg , mg, g, kg, μL , mL, L, mmol, mol, μM , mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, $^{\circ}\text{C}$ 。
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.
- (10) Supplemental Data: 一部のデータ(Methodの詳細, 追加データ, DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など)をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁(表題ページ)に下記の中から該当するカテゴリー(5つ以内)を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>) の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>) に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利害関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿は Microsoft Word ファイルまたは PDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を 1 回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

9. Executive Editors

若干名の Executive Editor をおく。Executive Editor の選考は編集委員会に設けられた Executive Editor 小委員会が行う。Executive Editor が責任著者になっている論文または Executive Editor が推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editor はこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる 2 名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦した Executive Editor の氏名が記載される。

10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^b （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4 頁目からは 16,000 円／頁。 ^b：図等も含む。

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称: Fundam. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイトに公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter: 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report: 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合は筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)

に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。迅速に掲載するために、支払いは原則としてクレジットカードのみとする。期限までに支払いが行われない論文は“採用取り消し”とする。

論文種	掲載料（消費税別）				
	基本料 （円／論文）	単語 ^a （円／単語）	図 ^b （円／図）	表 ^b （円／表）	引用文献 ^b （円／文献）
Original Article	20,000	4	2,500	3,000	150
Letter	30,000	5	2,500	3,000	150
Toxicomics Report	30,000	6	2,500	3,000	150
Review	30,000	5	2,500	3,000	150
Minireview	40,000	5	2,500	3,000	150

^a 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion）、図表の説明、および引用文献の単語数の合計。^b 論文原稿に含まれる単語、図、表、引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。

入 会 案 内

1. 本会に入会を希望される方は、「一般社団法人日本毒性学会定款」の内容を了承の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
申し込みにあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。
評議員については、学会ホームページ掲載の「評議員一覧」をご覧ください。評議員の会員番号は評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 理事長による入会の承認(定款第10条参照)が得られた後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は5月1日から4月30日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年度の機関紙開始号であるNo.3からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。

一般会員	7,000 円
(ただし定款第16条に定めた評議員は10,000円)	
学生会員	3,000 円
賛助会員	100,000 円

(1.0口)以上(0.2口単位で増やすことができる)
*本年度入会希望の方は、4月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lftes8mjqt9/g7DahB/login.html>)へログインし、手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lftes8mjqt9/g7DahB/login.html>)へログインし、手続きを行って下さい。

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 9 年 7 月 24 日制定 平成 24 年 1 月 1 日改定
 平成 15 年 7 月 19 日改定 平成 26 年 5 月 1 日改定
 平成 19 年 1 月 16 日改定 平成 26 年 6 月 17 日改定
 平成 21 年 7 月 5 日改定 平成 27 年 2 月 23 日改定
 平成 23 年 1 月 14 日改定

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するために JSOT 認定トキシコロジスト制度を設ける。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- (1) JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- (2) 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- (3) 書類審査基準は次の通りとする。
 - (イ) 出願時に JSOT の会員であること。
 - (ロ) 出願時に 6 年制大学卒業後 5 年以上、4 年制大学卒業後 7 年以上、短期大学卒業後 10 年以上、高等学校卒業後 12 年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。
 毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

- (ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が 80 点以上に達していること。
- (ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。

- (4) 認定試験は原則として年 1 回実施し、筆記試験とする。
- (5) 受験料は 3 万円とする。
- (6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- (1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は 2 万円とする。
- (2) JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後 5 年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 27 年 2 月 23 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学術年会 毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	10 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
講習会等	基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	40 / 回 5 / 回	

- 1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については 10 点、それ以外の共同発表の場合は 5 点とする。
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会
- 4) JSOT 生涯教育講習会等

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 12 年 6 月 29 日制定
平成 15 年 7 月 19 日改定
平成 19 年 1 月 16 日改定
平成 21 年 7 月 5 日改定
平成 23 年 1 月 14 日改定
平成 24 年 1 月 1 日改定
平成 24 年 7 月 5 日改定
平成 24 年 12 月 12 日改定
平成 26 年 5 月 1 日改定
平成 26 年 6 月 17 日改定
平成 27 年 2 月 23 日改定

- 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
- 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
- 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
 - 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
- 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
- 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
- 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
- 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
- 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
- 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
- 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
- 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則：平成 27 年 2 月 23 日改定の本細則は同日から施行する。

評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 学術年会 参加 / 発表 毒性学に関連する学会 ¹⁾ の学術年会 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 主催・公認講習会等 ²⁾ (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX 定期総会 (ICT), ASIATOX 定期総会, SOT 年会, EUROTOX 年会, 日本安全性薬理研究会, 日本衛生学会, 日本環境変異原学会, 日本産業衛生学会, 日本獣医学会, 日本実験動物学会, 日本製薬医学会, 日本先天異常学会, 日本中毒学会, 日本毒性病理学会, 日本内分泌攪乱化学物質学会, 日本免疫毒性学会, 日本薬学会, 日本薬物動態学会, 日本薬理学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

塚田 裕三 石川 栄世
 福田 英臣 池田 正之
 黒岩 幸雄 井村 伸正
 渡辺 民朗 高橋 道人
 遠藤 仁 菅野 盛夫
 赤堀 文昭 土井 邦雄
 津田 修治 吉田 武美

[功労会員]

高仲 正 前川 昭彦
 安田 峯生 菊池 康基
 今井 清 降矢 強
 唐木 英明 飯家 公夫
 牧 栄二 堀井 郁夫
 上野 光一 三森 国敏

[賛助会員]

旭化成ファーマ(株)
 あすか製薬(株)
 アスピオファーマ(株)
 エーザイ(株)
 小野薬品工業(株)
 協和発酵キリン(株)
 (株)三和化学研究所
 昭和電工株式会社
 (株)新日本科学
 第一三共(株)
 大日本住友製薬(株)
 武田薬品工業(株)
 (一財)生物科学安全研究所
 帝人ファーマ(株)
 東レ(株)
 日本新薬(株)
 日本たばこ産業(株)
 (株)ボゾリサーチセンター
 持田製薬(株)

(五十音順)
 味の素製薬(株)
 アステラス製薬(株)
 (株)イナリサーチ
 (株)LSIメディアエンス
 杏林製薬(株)
 興和(株)
 塩野義製薬(株)
 (公財)食品農薬医薬品安全性評価センター
 ゼリア新薬工業(株)
 大正製薬(株)
 大鵬薬品工業(株)
 田辺三菱製薬(株)
 中外製薬(株)
 (株)DIMS 医科学研究所
 トーアエイヨー(株)
 (一社)日本化学工業協会
 ファイザー(株)
 Meiji Seika ファルマ(株)
 ライオン(株)

[役員] (2016～2017年度)

理事長 永沼 章
 理事 天野 幸紀 石塚真由美 小川久美子
 小椋 康光 小野寺博志 鍛冶 利幸
 佐藤 雅彦 鈴木 睦 高崎 渉
 中村 和市 広瀬 明彦 福井 英夫
 眞鍋 淳 務台 衛 山田 久陽
 横井 毅 吉田 緑 和久井 信

監事 落合 敏秋 姫野誠一郎

[学術年会長]

第43回 (2016年) 佐藤 雅彦
 第44回 (2017年) 熊谷 嘉人
 第45回 (2018年) 務台 衛

[委員会] (2016～2017年度)

- 総務委員会
- ◆連携小委員会
- ◆評議員選考小委員会
- ◆名誉会員および功労会員選考委員会
- 財務委員会
- 編集委員会
 - ◆JTS 編集委員会
 - ◆FTS 編集委員会
 - ◆Executive Editor 小委員会
 - ◆田邊賞選考小委員会
- 教育委員会
 - ◆生涯教育小委員会
 - ◆基礎講習会小委員会
 - ◆認定試験小委員会
- 学術広報委員会
 - ◆学会賞等選考小委員会
 - ◆特別賞等選考小委員会
 - ◆技術賞選考小委員会
 - ◆望月喜多司記念賞選考小委員会
 - ◆日化協 LRI 賞選考小委員会
 - ◆学術小委員会
 - ◆広報小委員会

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

務台 衛 (委員長)
 鍛冶 利幸 菅野 純 熊谷 嘉人
 佐藤 雅彦 中村 和市 永沼 章
 広瀬 明彦 眞鍋 淳
 菅野 純 (委員長)
 中村 和市 広瀬 明彦 山田 久陽
 横井 毅 (委員長)
 小川久美子 小野寺博志 鈴木 睦
 中村 和市 (委員長)
 務台 衛 (委員非公開)
 中村 和市 (委員長)
 小川久美子 福井 英夫
 鍛冶 利幸 (委員長)
 鍛冶 利幸 (委員長)
 永沼 章 (委員長)
 永沼 章 (委員長)
 未 定 (委員長)
 (副委員長以下非公開)
 広瀬 明彦 (委員長)
 鈴木 睦 高崎 渉 古川 賢
 鈴木 睦 (委員長)
 五十嵐勝秀 石塚真由美 於勢 佳子
 姫野誠一郎 義澤 克彦
 高崎 渉 (委員長)
 小野寺博志 (副委員長)
 朝倉 省二 桑原 正貴 橋本 清弘
 古川 賢 和久井 信
 古川 賢 (委員長)
 (副委員長以下非公開)
 佐藤 雅彦 (委員長)
 吉田 武美 (委員長)
 (委員非公開)
 佐藤 雅彦 (委員長)
 斎藤 幸一 (委員長)
 (委員非公開)
 佐藤 雅彦 (委員長)
 (委員非公開)
 熊谷 嘉人 (委員長)
 (委員非公開)
 天野 幸紀 (委員長)
 石塚真由美 小椋 康光 高崎 渉
 高橋 祐次 山田 久陽 吉成 浩一
 久田 茂 (委員長)
 小椋 康光 (副委員長)
 伊藤 志保 橋本 愛

★その他関連の委員会

- IUTOX President 菅野 純
- ASIATOX 担当 熊谷 嘉人

2016年12月1日 印刷

2016年12月1日 発行

発行人 永沼 章
 編集人 鍛冶 利幸
 発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
 パレスサイドビル
 (株)毎日学術フォーラム
 一般社団法人日本毒性学会事務局
 TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555
 E-mail : jsotq@jsot.jp
 振替 00150-9-426831
 http://www.jsot.jp

印刷所 株式会社仙台共同印刷
 〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
 TEL (022) 236-7161